

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	重野, 寛(Shigeno, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2021
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.8, No.1 (2021. 3) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000008-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

重野 寛

慶應義塾大学 DMC 研究センター所長

理工学部教授

『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 8 号をお届けいたします。本号には、DMC の新しい試みである対談「DMC TALK」、2 編の寄稿、この 1 年間の活動報告、所員の研究成果などが掲載されています。

2020 年は新型コロナウイルス (COVID-19) の影響により、世の中の様相が大きく変化した 1 年でした。3 つの密 (密閉、密集、密接) を避けるために、人と人とが直接会うことが憚られ、人の移動も大きく制限されました。大学の講義は全面的にオンライン講義に移行し、研究活動や日々の業務もオンラインで実施することが求められました。大きな制約の中、どのように組織と活動、そして活力を維持するのかが問われ、情報通信技術 - デジタルをいかに取り込んで活用するかが課題となりました。

例年開催してきた DMC シンポジウムをどのような形で実施するかを検討してきました。対面でのシンポジウム開催が難しい中、新しい試みの一つとして研究員による対談、DMC TALK をスタートしました。DMC には、デジタルメディア・コンテンツを軸として、文系理系の枠を超えて、様々な専門を持つ研究者が集まっています。この新しい企画では、専門の異なる研究者の対談や少人数での議論から、互いの研究領域への理解を深め、デジタルアーカイブの方向性やデジタル・アナログ融合による新たな展開を探っていくことを意図しています。本号に掲載した「【DMC TALK】 デジタル四方山話——書物研究をめぐって」はその第 1 回で、金子晋丈先生 (DMC/慶應義塾大学理工部) と徳永聡子先生 (DMC/慶應義塾大学文学部) による対談です。対談の様子はオンラインでも配信の予定で、第 1 回に続いて、このような対談をシリーズで提供していく計画です。DMC シンポジウムについても、今後、状況に会う形で開催していきたいと考えています。

本号には 2 編の寄稿も掲載されています。松本直己先生 (DMC) の研究ノート「コミュニティ抽出を利用したボロノイゲームの着手決定」では、グラフにおけるコミュニティ抽出と、ボロノイゲームと呼ばれる組合せゲームの着手決定への応用について解説をいただいています。東詩優氏 (慶應義塾大学文学研究科博士課程) の報告「HUMI プロジェクト「プロジェクトアーカイブ」経過報告——HUMI 本棚データベースの公開と著作権——」では、貴重書のデジタル化の先駆けとなった HUMI プロジェクトのプロジェクトアーカイブである「HUMI 本棚データベース」の公開と著作権にまつわる問題をまとめて頂いています。

『DMC 紀要』第 8 号を通じ、より多くの研究者、関係者の皆様へ当センターの活動をお伝えできましたら幸いです。